

日本化粧品技術者会誌投稿規定

1. 投稿資格

投稿は本会会員を原則とする。会員以外の投稿は学術委員会が承認したものに限り。

2. 著作権

本誌に投稿された記事についての著作権は日本化粧品技術者会に帰属する。

3. 投稿原稿

- 3.1 原稿は原著、短報、総説および資料とし、未発表のものに限る。
- 3.2 原稿は本投稿規定および投稿の手引きに従って書き、日本化粧品技術者会内学術委員長あてに和文要旨、英文要旨、本文、図、表および写真とともに正1部副2部（ただし副2部はコピーでよい）を送付する。英文要旨の末尾に、英文タイトル、英文アブストラクトからキーワードを抽出して10語以上重要なものから順番に英文で記載する。
- 3.3 原稿は投稿規定に準じたものであれば英文でも投稿できる。このとき和文要旨、タイトル、著者名、所属会社、および英文要旨を投稿規定に従って提出する。
- 3.4 原稿の表紙に投稿の種類、題名、著者名、所属、およびそれらの英文を記載する。
- 3.5 原稿はMSワードを使用し白色無地のA4判縦用紙一枚に1440字（40字×36行）程度で記載する。短報は日本化粧品技術者会誌投稿用テンプレートを使用し作成すること。原著、資料もテンプレートを利用してよい。
- 3.6 投稿原稿が本会に到着した日を受付日とし、掲載が決定した日を採用日とする。

4. 原著

化粧品科学および化粧品産業の発展に貢献する技術上関連ある独創的な研究で価値ある結論あるいは事実を含むものであること。

- 4.1 和文要旨は目的、方法、結果について論文の内容がわかるように500字以内に要約する。
- 4.2 英文要旨は和文要旨にそって200語～300語にまとめる。
- 4.3 論文は次の順序に書くことが望ましい。
 1. 緒言、2. 実験、3. 結果、4. 考察、5. 結論、6. 引用文献

5. 短報

断片的な研究であっても、化粧品科学およびその技術上関連ある独創的な研究、手法の改良など価値ある結論、あるいは事実を含むものは短報として投稿できる。

- 5.1 和文要旨4.1に準じ400字以内とする。
- 5.2 英文要旨4.2に準じ100語～200語とする。
- 5.3 原稿は3.5に準じて図、表も含めて刷上り4ページ（5600字）程度を原則とする。
- 5.4 論文は次の順序に書くことが望ましい。
 1. 緒言、2. 実験、3. 結果、4. 考察、5. 結論、6. 引用文献

6. 総 説

化粧品科学およびその技術上関連ある研究で、学術的あるいは技術的知識の発展を体系化したものは総説として投稿できる。

7. 資 料

化粧品科学およびその技術上関連ある研究で新しい事実あるいは価値あるデータ、調査研究、試験研究により有意義なデータを含むもので実験の結果報告の意味合いが強いものを資料として投稿できる。

8. 原稿の審査・再提出

- 8.1 動物を用いた実験から得られたデータを含むものは審査を行わずに著者に返却する。また、ヒトを被験者とした実験は実験内容を十分理解し被験者が志願したものである旨の記載を行うことを要する。
- 8.2 本会で受け付けた原著、短報、総説および資料の採否は学術委員会が決定する。原著、短報については査読審査を経て学術委員会で採否を決定する。学術委員会は投稿原稿について修正を求めることがある。
- 8.3 修正を求められた原稿は原則として2週間以内に再提出すること。

9. 著者校正

著者校正を1回行う。この際には印刷上の誤り以外の字句の修正などは原則として認めない。返却期限が著しく遅れた場合は学術委員会の校正をもって校了とすることがある。

10. カラー印刷

著者が写真部分などをカラー印刷することを希望した場合は、学術委員会がその妥当性を判断する。論文を理解する上で、カラー印刷が必須と学術委員会が認めた場合は、その費用は日本化粧品技術者会が負担する。それ以外の場合は、筆者の負担とする。

11. 別 刷

別刷は50部まで無料とし、これを超える場合は実費とする。別刷の申し込みは著者校正返却時に事務局あてに行う。

12. 原稿の提出

原稿は下記あてに送付するものとする。

〒113-0032 東京都文京区弥生2-4-16

学会誌刊行センター内

「日本化粧品技術者会誌」編集部

日本化粧品技術者会誌投稿の手引き

日本化粧品技術者会誌投稿規定を読んでから投稿ください。

1. 原稿の書き方

最近の日本化粧品技術者会誌の体裁にならい、同類の原著（旧報文）、短報（旧ノート）、総説および資料を参考にして書いてください。

1.1 原著、短報、総説および資料は次の順序で作成してください。

表紙（投稿の種類、題名、著者名、所属）、和文要旨、英文要旨、本文、引用文献、図、表

1.2 本文の形式はなるべく次の項目の順に書いてください。

1. 緒言 2. 実験 3. 結果 4. 考察 5. 結論 6. 引用文献

1.3 短報は日本化粧品技術者会投稿用テンプレートを使い作成してください。原著、総説、資料もテンプレートを利用できます。テンプレートを使用しない場合は、MSワードで作成してください。

1.4 文章は簡潔に、現代かなづかいと常用漢字を用いて書いてください。外国の人名、地名、会社名などは原則として外国つづりで書いてください。

1.5 原稿の1枚目から順次必ず次の項目を書いてください。

(1) 原著、短報、総説および資料の区別を1行目に書いてください。

(2) 題名などは2行目中央に書いてください。

なお、副題がある場合は改めてその下に書いてください。

(3) 著者名は題名などから1行あけて書いてください。

著者連名で各著者の所属の異なるときは*、**印で区別してください。

(4) その次の行に研究者の所属（社名、所属名）を書いてください。所属が異なる場合はその肩に*、**印で区別してください。

(5) 行を改めて郵便番号と所在地を書いてください。

著者の所属が異なる場合は*、**印で区別してください。

(6) 上の項目から1行あけて英文題名を日本文の場合に準じて書いてください。

(7) 日本文の場合に準じて英文で著者名、所属と所在地を書いてください。

1.6 原稿の区分は、ポイントシステムを使用し、大見出し、中見出し、小見出しをそれぞれ1., 1.1., 1.1.1., のように書いてください。

1.7 行を改めるときは1字分あけて書いてください。句読点、括弧、カタカナは全角文字を用いて書いてください。

1.8 アルファベットは半角文字を使用してください。

1.9 数字はアラビア数字を用いてください。

1.10 文章中の語句に注をつける場合は、その右肩に注の記号をつけ、注の記号は通し番号としてください。注はその小節が終わったところで行を改め、注として、1字あけて書きはじめてください。

1.11 繰り返し用いる名称は略号で示すことができます。略号は初出時に（ ）内に示し、以下その略号を用いてください。定義しないで用いることのできる略号は以下のようなものです。UV, UVA, UVB, GLC, GCMS, HPLC, TLC, ODS カラム, IR, ATP, m-RNA など。

2. 化合物など

- 2.1 文章中の物質名は原則として商品名を用いず化学名（原則としてIUPAC に準ずる）または一般名で、日本語または英語で書いてください。
- 2.2 本文中では、化合物は化学式でなく、化合物名で書いてください。
- 2.3 化合物を省略記号で表す場合は、本文の最初に出てくるところで正式名称と省略記号を書いてください。
- 2.4 学術用語はなるべく最新刊の文部科学省学術用語集によってください。

3. 単位，記号，数式など

- 3.1 記号，符号は国際的に使用されているものを用いてください。
- 3.2 単位は原則として国際単位（SI）を用いてください。別表例を参考にしてください。
- 3.3 数式は原則として $a-b \cdot -ac \ + \ + - -bd$ のように書いてください。ただし、本文中に出てくる場合は a/b ， $(a+b) / (c+d)$ のように1行に書いてください。

4. 図，表の書き方

- 4.1 図，表，写真はカラー印刷，モノクロ印刷のいずれとするかを決めて，テンプレートに貼り付けてください。合わせて4.2以下に従い原本を投稿してください。審査終了後での変更はできません。
- 4.2 図，表およびその題目，説明は英文で書き，本文とは別に作ってください。図は下にFig. —1，表は上にTable—1 と書いてください。一つの結果は表，もしくは図で示し，ダブリを避けてください。
- 4.3 図，表は本文の後に添付してください。
- 4.4 図はA4判の白無地の用紙に実際に掲載される大きさの2ないし3倍に鮮明に書いてください。図の掲載時の大きさは約1/2（面積として約1/4）に縮小されますので線や点などの大きさにご注意ください。
- 4.5 写真は裏面にFig.—No. と天地を明示して提出してください。

5. 引用文献

- 5.1 引用文献は該当する場所の右肩に1)～3)のように通し番号をいれ，本文の最後にまとめて記載してください。
- 5.2 引用文献の略称は，最近の科学文献速報またはChemical Abstracts の略称に準じてください。
- 5.3 引用文献は著者名，文献名，巻，ページ（年）の順序で書いてください。著者名は漢字の場合は姓名を，欧字の場合は姓に名をイニシャルで付けてください。複数著者の場合は全員を列記してください。
- 5.4 原則として和文文献であれば著者名，文献名ともに和名で，英文文献であれば英名と統一してください。
- 5.5 著者の未印刷の研究を引用するときは〔投稿中〕としてください。

〔雑誌〕

熊谷広子, 渡辺弘子, 神津登志枝, 野口ひろみ, 高橋元次, 粧技誌, 23, 9—21 (1989)

川島 眞, 西日皮, 101, 609—613 (1991)

穂利 豊, 松尾隼朗, 大城戸宗男, 日皮会誌, 92, 861—864 (1982)

山崎和広, 木村知史, フレグランスジャーナル, 24 (10), 69—77 (1996)

W. C. Griffin, J. Soc. Cosmet. Chem., 5, 249—256 (1954)

M. Nazzaro-Porro, S. Passi, L. Boniforti, F. Belsito, J. Invest. Dermatol., 73, 112—117 (1979)

K. Morimoto, H. Tojima, T. Haruta, M. Suzuki, M. Kakemi, J. Pharm. Pharmacol., 48, 1133—1137 (1996)

[特許]

特開平04—230308

U. S. P. 2, 345, 645 (1990)

[単行本など]

新実験化学講座, 無機化合物の合成(1), 8 巻, 丸善, 1976, p. 364

光井武夫編, 新化粧品学, 南山堂, 1997, p. 408

窪田正男, 駒木亮一, 伊藤芳和, 荒井みち代, 庭瀬英明, 第30回SCCJ 研究討論会講演要旨集, 61, 1991

J. W. Cook, Progress in Organic Chemistry, Vol. 4, Butterworths Scientific Publications, London, 1958

A. B. Robert, M. B. Sporn, The Retinoids, Vol. 2, ed. by M. B. Sporn, A. B. Robert, D. S. Goodman, Academic Press, Orlando, 1984, p. 209—286

6. 付 記

6.1 投稿者は投稿原稿の写しを作り, 手元に保管されるように希望します。